



伊藤 幸義さん(28) 駒林 実行委員長



相澤 吉悦さん(69) 大形地区野球部元監督

ふるさと花火 in 長沼 実行委員長 伊藤 幸義さん(28) 駒林

新田、北方地区をはじめ、協賛者や関係団体など、多くの皆さんの支えがあって、30回を迎えることができました。30年の間には、方向性や実行委員の人数不足など、開催を危ぶむこともありましたが、東日本大震災の影響で、会場が使用できなかった

花火が始まったきっかけは、今もはつきり覚えていません。87年8月13日、集会所で野球大会の慰労会をしていたときのこと。誰かが「監督、長沼に花火が打ち上げられたら、きれいだよね」と言ったところ、みんなが賛同。同29日に野球部員たちで花火大会

を開催しました。一発目の花火が上がったときは、涙が流れました。「花火は、今回だけ」と話すと、手伝いに来た迫町青年会員が引き継いでくれました。歴代実行委員のお陰で「おらいの花火」がここまでつなげてきました。感謝しています。

Interview

人の思い大切にしたい花火

実行委員の皆さんに頼まれ、2回目の開催から、打ち合わせ場所を提供しています。当時は、集会所がなかった。その縁で、毎年花火を提供しています。長沼花火の魅力は「記念花火」。提供者の思いが込められており、それがたくさん打ち上がるのですから。人の思いを大切にしている花火だから、30年も続いているのですよ。

花火が誕生日プレゼント

【千波】10年ほど、親戚や友人家族たちとバーベキューをしながら、毎年花火を楽しんでいます。【なつみ】花火開催日は私の誕生日。毎年長沼で祝ってもらっています。来年も花火の誕生日プレゼントを楽しみにしています。【2人】30回開催おめでとうございます。長く続けてください。

長谷川武勇さん(79)



袋なつみさん(24)・千波さん(49)



1 水中スターマインが見られる花火大会は、市内で長沼だけ
2 2000年から始まった名物「ナイアガラ」。今年の全長は159%
3 看板の設置などは、7月中旬に準備する。相談役となった初期メンバーから意見を聴く。打ち上げ会場付近の灯籠は、エスペランサFCの子供たちも協力。花火会場は、家族連れでバーベキューやスイカ割りなどを楽しむ姿が見られた。花火会場内では、バーベキューをできるのは、県内では長沼だけ。フットピア公園駐車場には、屋台などが並び、多くの家族連れでにぎわう。花火打ち上げ前は、フラダンスや太鼓などが披露

おこしにつなげる」。実行委員が設定した花火大会の目的は、的確なものだった。2017年8月13日。初の打ち上げから、10943日が経過した。これだけ、続いているボランティア形式の花火大会は、全国でもまれ。これは、花火の提供、会場付近の清掃など、地域が「自分たちの花火」と支えているからだ。人と心をつなぐ「長沼花火」。それはこれからも変わらない

心つないだ10943日



ふるさと花火 in 長沼が 30 回の記念大会を迎えた
大形地区野球部が始めた取り組みは
地区の青年会を中心とした実行委員会に引き継がれ、現在に至っている
新田、北方地区では「おらいの花火」と愛されているこのイベント
おらいの花火が、30年続いてきた理由を探った



第30回記念ふるさと花火in長沼

人と心つないだ花火
これからも変わらず

「第30回記念ふるさと花火 in 長沼」は8月13日、長沼フットピア公園で開かれ、約3000発の打ち上げ花火が長沼を彩った。

水中スターマインや長さ約160mの光のカーテン「ナイアガラ」に、見物客は歓声を上げた。このほか、子供の誕生日や供養など、市民から募集した「記念花火」がお盆の夜空を鮮やかに染めた。

長沼に初めて花火が打ち上がったのは1987年、迫町大形地区の「大形地区野球部」が主催した「大形花火大会」。これに関わった迫町青年会員が、翌年「長沼に花火を打ち上げる実行委員会（高橋敏幸委員長）」を結成し、「第2回ふるさと花火 in 長沼」が開催され、現在に至っている。

当初は、登米市（当時）でインターハイが開催される90年までの予定だったが、それ以降の存続を求める声が多数寄せられた。花火を楽しみたいということもあるが、新田、北方地区では「長沼花火はおらほの宝物」と、貴重な地域資源と位置付けていた。「長沼という地域資源を生かし、ま

YOSAKOI & ねぷた in とよさと 8月6日



とよま明治村夏まつり 8月5日



夏景色の登米彩の



佐沼夏祭り 7月22~23日

